

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策																		
施策の方向	◇青少年の健全育成 ①交流活動の推進																		
担当課	文化振興課																		
実施事業	事業No.	1406	事業名	青少年の国際感覚と英語等の語学力の育成															
	SDGs																		
	事業内容	茨木市国際親善都市協会青少年活動室などにおいて、歌やゲームを通して、楽しみながら英語等を学ぶことで、こどもの国際感覚と語学力を養成します。											ライフステージ		社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境	
				○															

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
参加人数	人	130						200
できたこと(達成したこと)	「英語で遊ぼう」、「中国語で遊ぼう」を開催し、小学生を中心に歌やゲームを取り入れ、楽しみながら英語等を学ぶことができた。 また、イースターやハロウィン等をテーマとした活動回を設定し、他国の文化にふれる機会を設けたことで、国際感覚を養うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	参加者数を増加させることができなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	市広報誌での周知可能回数が2か月に1度に減少したことによる参加者数の減少が顕著であり、市広報誌を補完する周知方法を模索することが課題である。 加えて、人気のある工作等のワークショップの機会を増やす等、活動の魅力を高める必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和8年度までにワークショップの機会を増やす。加えて、参加者への今後の活動と申込方法の周知の強化を図り、リピーターの確保に努める。 各教室のニーズの動向を踏まえ、R11(目標)の参加者人数を400人から200人に変更する。 R11(目標) 英語で遊ぼう:120人(15人×8回)、中国語で遊ぼう:80人(10人×8回)

■計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり																		
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組																		
担当課	公園緑地課																		
実施事業	事業No.	3502			事業名	公園等の整備及び維持補修													
	SDGs																		
	事業内容	多岐にわたるニーズに対応するため、引き続き地域との協議を丁寧に行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもを持ち育てたいと思える環境

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
遊具の更新・設置を行った公園数	か所	5						3~5
できたこと(達成したこと)	遊具の更新・設置を行った公園数の目標を達成した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
 A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	特になし。
A		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き目標を達成できるように業務を行う。
継続		

■計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり																		
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組																		
担当課	交通政策課																		
実施事業	事業No.	3503		事業名	交通安全啓発・指導														
	SDGs																		
	事業内容	交通安全教室を市内の幼稚園や保育所、小・中・高等学校で実施します。また、体験型の教室を実施するほか、自転車乗車時におけるヘルメット着用の推進等を図ります。										ライフステージ			社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもを持ち育てたいと思える環境	
				○															
																			○

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
交通安全教室の実施回数	回	119						120
できたこと(達成したこと)	未就学児から高校生まで、実地指導を中心に実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	高等学校からの受講希望が少なかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
 A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	未受講の施設に対し、当事業の重要性について、引き続き周知する必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	当事業への理解と重要性について、引き続き周知する。